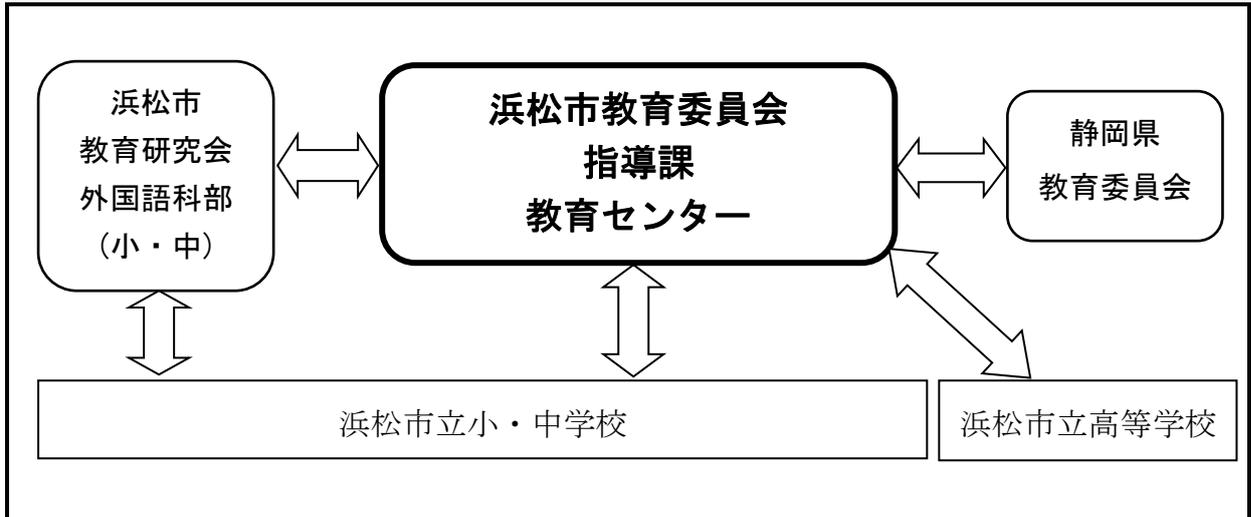


# 浜松市英語教育改善プラン

## 実施内容

## (1) 研修体制の概要



## (2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

※現状は文部科学省の「英語教育実施状況調査」により把握している。

※目標値は、別紙「目標管理書」による。

## ① 求められる英語力を有する英語担当教員の割合（中学校）

【2019年度現状】	35%
【2020年度以降の目標値】	2020年度 37%
	2021年度 39%
	2022年度 42%

## 【方策】

- ・各研修会において現状や数値目標を提示し、外部検定試験による資格取得の意識を高める。
- ・教員採用試験において実施している有資格者への加点制度を継続していく。

## ② 求められる英語力を有する生徒の割合（中学校 第3学年）

【2019年度現状】	37%
【2020年度以降の目標値】	2020年度 40%
	2021年度 45%
	2022年度 50%

## 【方策】

- ・各研修会において現状を伝え、英語能力に関する外部試験への関心を高める。
- ・2020年度より、小中学校でモデル校を選定して外部試験を行い、生徒の英語力と教員の指導力向上に役立てる。

## ③ 「CAN-DO リスト」の形式で技能別に設定した学習到達目標の整備状況（設定・公表及び達成状況の把握等の状況）

## &lt;中学校&gt;

【2019年度現状】	設定 100%	公表 9%	達成状況の把握 32%
【2020年度以降の目標値】	2020年度 設定 100%	公表 15%	達成状況の把握 45%
	2021年度 設定 100%	公表 20%	達成状況の把握 50%
	2022年度 設定 100%	公表 25%	達成状況の把握 60%

## 【方策】

- ・設定した CAN-DO リストの公表及び達成状況の把握について、各研修会で周知する。
- ・研修会において、CAN-DO リストの活用方法の実践例を提示し、教員の意識を高める。
- ・2021 年度からの新学習指導要領全面実施に伴い、CAN-DO リストも大幅な改訂が求められるため、各校において準備を進めていけるよう周知する。

## &lt;小学校&gt;

次年度以降に整備状況の調査を行うため、目標値のみ設定する。

【2020 年度以降の目標値】	2020 年度	設定 10%	公表 5%	達成状況の把握 5%
	2021 年度	設定 20%	公表 10%	達成状況の把握 10%
	2022 年度	設定 30%	公表 15%	達成状況の把握 15%

## 【方策】

- ・CAN-DO リストの作成方法について、各研修会で周知する。

## ④ 生徒の授業における英語による言語活動時間の占める割合（中学校）

【2019 年度現状】 85%

【2020 年度以降の目標値】	2020 年度	86%
	2021 年度	87%
	2022 年度	88%

## 【方策】

- ・「言語活動を通して資質・能力を育成する」ことの重要性を各研修会で重点的に周知するとともに、事例を紹介し、教員の実践意欲を高めるようにする。

## ⑤ 「話すこと」及び「書くこと」における、英語表現の能力を評価するためのスピーキングテスト及びライティングテスト等のパフォーマンステストの実施状況（中学校）

【2019 年度現状】 スピーキングテスト 3 回 ライティングテスト 2 回

【2020 年度以降の目標値】	2020 年度	スピーキングテスト 3 回	ライティングテスト 3 回
	2021 年度	スピーキングテスト 4 回	ライティングテスト 3 回
	2022 年度	スピーキングテスト 4 回	ライティングテスト 3 回

## 【方策】

- ・各研修会において、パフォーマンステストの実施方法や内容、評価の仕方について説明する。
- ・パフォーマンステストの具体的な実践例を紹介する。

## ⑥ 英語担当教員の授業における英語使用状況（中学校）

1 単位時間のうち、発話の半分以上を英語で行っている教員の割合

【2019 年度現状】 85%

【2020 年度以降の目標値】	2020 年度	86%
	2021 年度	87%
	2022 年度	88%

## 【方策】

- ・言語活動中心の授業に変えていくことで、生徒も教師も英語による発話の割合を高めていけることから、言語活動の重要性とともに、新学習指導要領でも重視されている「授業は英語で行うことを基本とする」ことを周知していく。
- ・指定教育研究校や訪問校での実践例を研修会で紹介し、教員の意識を高める。

### ⑦ 英語担当教員に対する研修実施回数、研修受講者数（小中学校）

【2019年度現状】 小学校 21回 548人 中学校 15回 375人

【2020年度以降の目標値】 2020年度 小学校 14回 569人 中学校 15回 435人  
 2021年度 小学校 14回 550人 中学校 13回 300人  
 2022年度 小学校 14回 550人 中学校 13回 300人

#### 【方策】

研修の精選により、一部の教員を対象とした研修会や希望研修の回数は減少する。しかし、以下3つの全校悉皆の研修を増やしたり、これまで行ってきた研修をさらに充実させたりしていくことで、研修内容の質的向上を図る。

- ・外国語リーダー養成研修を昨年度の2回から3回に変更し、3回目は小中合同研修とする。
- ・中学校においては浜松市の各地区から約1校ずつ、小学校においては全体で3校をモデル校として指定し、外部試験を行い、生徒の英語力と教員の指導力向上に役立てる。モデル校の中で、次年度に浜松市教育研究会外国語科部会が行う授業公開校と兼ねている場合は、試験結果を基に授業改善を進める。この外部試験を活用した、事後の授業改善研修を全校悉皆の研修とし、求められている授業改善の方向や指導力向上について、教員の意識を高めていく。
- ・ALTの活用の仕方や授業づくりなどについて、主に小学校教員を対象とした外国語教育の研修を行い、指導力の向上を目指す。

### ⑧ 小学校の新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合（小学校英語専科加配に係る）

2020年度採用予定者（達成値） 12%（11人）  
 2021年度採用予定者（目標値） 21%（20人）  
 2022年度採用予定者（目標値） 26%（25人）  
 2023年度採用予定者（目標値） 37%（35人）  
 2024年度採用予定者（目標値） 42%（40人）  
 2025年度採用予定者（目標値） 50%（45人）

#### 【方策】

- ・2021年度採用選考試験より、以下の英語資格を有する者に、2段階で加点を行い、小学校受験希望者が英語力の必要性を実感できるようにする。  
 <第1段階> 中学校英語免許状、英語検定2級、TOEFLiBT60点以上、TOEIC600点以上  
 <第2段階> 英語検定準1級、TOEFLiBT72点以上、TOEIC785点以上

### （3）研修の体系と内容の具体

2020年度は、「1. 外国語リーダー養成研修」の実施回数を2回から3回とする。また、新たに「11. 外部試験を活用した授業改善研修」を行い、英語担当教員の指導力向上及び各校における授業改善を推進する。

「12. 浜松市教育研究会・外国語科部会と連携した研修」の実施回数を増やし、浜松市教育研究会・外国語科部会との連携をより深める。

#### 【研修】

1. 外国語リーダー養成研修Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
2. 小学校外国語研修Ⅰ・Ⅱ
3. 新学習指導要領評価研修
4. 指定教育研究校による研究発表会
5. 教職員向け授業改善資料「はままつの教育」の作成及び学校訪問での指導・助言
6. 初任者研修
7. 2年目研修

8. 研究員研修
9. 第13期教師塾
10. スーパーティーチャーによる公開授業及び講義
11. 外部試験を活用した授業改善研修
12. 浜松市教育研究会・外国語科部会と連携した研修
13. ALT（外国語指導助手）の資質能力の向上にかかる研修

1～13の研修内容の詳細は以下に記す。

#### 1. 外国語リーダー養成研修Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ【浜松市教育センター】

（小学校・中学校）

##### ①外国語リーダー養成研修Ⅰ（9月）

対象人数：小学校100人 講師 直山 木綿子 視学官

新学習指導要領における各校や各自における外国語教育の取組、外国語活動及び外国語科の授業を振り返りながら、授業改善につながる指導と評価の在り方を見直すとともに各校における外国語指導者としての力量を高める。

##### ②外国語リーダー養成研修Ⅱ（7月）

対象人数：中学校50人 講師 山田 誠志 調査官

新学習指導要領完全実施に向けて、授業改善につながる言語活動の充実や指導及び評価について見直ししながら、各校や各自の外国語教育の取組や外国語科の授業を振り返るとともに各校における外国語指導者としての力量を高める。

##### ③外国語リーダー養成研修Ⅲ（10月）

対象人数：小学校・中学校150人 講師 中嶋 洋一 関西外国語大学教授

各校や各自における外国語教育の取組や、外国語活動及び外国語科の授業を振り返りながら、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に向けて考え、外国語指導者としての力量を高める。

#### 2. 小学校外国語研修Ⅰ・Ⅱ【浜松市教育センター】

小学校外国語教育の授業づくり研修の一環として、年2回、希望者を対象に実施する。各回の内容は以下の通りである。（定員40人）

##### ①小学校外国語研修Ⅰ「外国語科授業づくり」

- ・この回のみ、小学校・中学校両方の教員を対象
- ・新学習指導要領の理解を深めるとともに、高学年外国語科の授業づくりについて学ぶ。

##### ②小学校外国語研修Ⅱ「ALT等外部人材の活用」

ALT派遣業者トレーナーを招き、外国語活動におけるALT等外部人材の効果的な活用の仕方を学び、指導力向上を図る。

#### 3. 新学習指導要領評価研修【浜松市教育委員会指導課】

浜松市内の学校に対して、文部科学省主催の各教科等教育課程研究協議会の内容を基に、新学習指導要領の内容及び評価の在り方について伝達する。2020年度は、1月～2月の間に、4回、中学校教諭希望者を対象に実施する。（2019年度は、小学校教諭希望者を対象に実施。）

#### 4. 指定教育研究校による研究発表会【浜松市教育委員会指導課】

指定教育研究校における研究により、浜松市立小・中学校の外国語活動・外国語科についての課題を解決する。指定教育研究校は研究発表会等を開催し、研究成果を公開する。

## 5. 教職員向け授業改善資料「はままつの教育」の作成及び学校訪問での指導・助言

### 【浜松市教育委員会指導課】

浜松市では、授業改善を推進し、児童生徒の資質・能力を確実に育成するため、毎年、教職員向け授業改善資料「はままつの教育」を発行している。2019年度は理論編として、他教科とともに、外国語活動・外国語科においても、「育成を目指す資質・能力」「見方・考え方」「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善」等について説明した。2020年度は実践編として、「深い学び」の実現に向けた授業改善の具体や学習評価についてまとめている。

毎年、各教科等の指導主事が浜松市内の小学校、中学校及び高等学校への学校訪問を行っている。2020年度も、「はままつの教育」を基に、新学習指導要領の内容や授業改善を推進するための視点について指導・助言を行う。外国語担当指導主事が訪問をする学校では、参観した外国語活動や外国語科の授業を基に、「見方・考え方」や「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善」の視点について、重点的に指導・助言を行う。

## 6. 初任者研修【浜松市教育センター】

全18回行われる研修のうち、外国語活動・外国語科の教科指導等について学ぶ機会を6回設定する。詳細は以下の通りである。

- ①発問、指示、板書等の授業における基礎的な指導技術
- ②小・中学校の先導的な授業参観・研究協議
- ③授業づくりの基本、指導案検討（指導案の書き方、単元及び単位時間の授業構想）
- ④授業構想、指導技術（模擬授業、代表授業指導案事前検討）
- ⑤初任者代表授業参観・授業実践グループワーク
- ⑥浜松市指定教育研究校の研究発表会における授業参観（授業改善）

## 7. 2年目研修【浜松市教育センター及び浜松市教育委員会指導課】

全5回行われる研修のうち、外国語活動・外国語科の研修を2回実施する。詳細は以下の通りである。

- ①新学習指導要領の内容理解、付けたい力を意識した授業づくりの方法（6月）
- ②6月に検討した指導案の実践報告、指導力向上に向けた取組（11月）

## 8. 研究員研修【浜松市教育センター】

外国語活動研究員数：6名程度 研究期間：2年間

小学校外国語活動の授業に関連した実践的なテーマを掲げ、個人で研究を進め、論文等にまとめる。毎年2月に開催される発表会や論文の配布、実践を通して浜松の教育の向上に努める。

## 9. 第13期教師塾【浜松市教育センター】

経験5年目程度の若手教員が、経験豊かで指導力のある師範教員のもとで、授業研究及び協議を重ね、確かな指導技術を身に付けることを目指す。発表会では、その成果を報告し、浜松の教育の向上に努める。

## 10. スーパーティーチャーによる公開授業及び講義【浜松市教育センター】

若手・中堅教員が、浜松市優秀教員に選ばれた教員の授業を参観したり、講話を聞いたりすることを通して、日常の指導において大切にすべきことや、子供の指導・支援の仕方について学ぶことを目的とする。

## 11. 外部試験を活用した授業改善研修【浜松市教育委員会指導課】

モデル校 小学校3校 実施学年6年（12月各校で実施）

中学校6校 実施学年2年（9月頃各校で実施）

授業改善研修会（全校悉皆） 小学校 2月開催 96校参加

中学校 12月開催 48校参加

学習指導要領において4技能のバランスのとれた育成が求められたことから、モデル校において外部試験を導入し、数的根拠を伴う客観的な成果とその検証を行うとともに、子供の英語運用能力の向上及び教師の指導力向上を図る。

モデル校は規模や地域性を考慮し、中学校においては2021年度の浜松市教育研究会における授業公開校と連携した上で進めていく。また、外部試験実施後の研修会は全校悉皆とし、浜松市全体の傾向や、子供が今後身に付けていくべき力、授業改善の方向性について研修する。

## 12. 浜松市教育研究会・外国語科部会と連携した研修

### 【浜松市教育研究会外国語科部会及び浜松市教育委員会指導課】

4月に行われる浜松市教育研究会の外国語部主任者会において、指導課の指導主事が講師となり、外国語教育の動向や外国語教育推進に係る情報等について伝達する。

外国語教育にかかわる教員が一堂に会する第1回・第2回浜松市教育研究会では、指導課指導主事が、授業における言語活動例や、指導と評価の一体化について講義をする。

## 13. ALT（外国語指導助手）の資質能力の向上にかかる研修【浜松市教育委員会指導課】

浜松市教育委員会では、生きた英語力育成事業として、60名のALTを配置している。ALTを対象とした、以下2つの研修を実施する。

### ①ALTの月例研修

JETプログラムALTを対象に、毎月1回指導課が研修を実施する。互いの授業実践を紹介したり、ALT派遣業者のトレーナーを招いた講義を年2回程度行ったりして、ALTの指導力向上を図る。

### ②静岡県主催の外国語指導講師の指導力向上研修（SDC：Skill Development Conference）

浜松市から、JETプログラムALT全員と日本人英語担当教員が2日間参加する。ALTと日本人英語担当教員の協働により、各学校において効果的な外国語の指導ができるよう、必要な知識・指導技術等を習得し、指導力向上を図ることを目的とする。

